

工業会活動

平成29年度JAQG活動報告会について

1. はじめに

JAQGは、世界の航空宇宙業界における品質活動をリードするIAQG（International Aerospace Quality Group）に対応した国内組織として、2001年当工業会（SJAC）内に設置された。品質に関する国際統一規格の制定、認証制度の確立を図ることにより、品質改善とコスト削減を行うことを目的としている。2001年当初79社で設立したメンバー数も、現在、460社にのぼり、多くの方のご指導を受けながら活動を展開している。

ここでは、今年2月にJAQGメンバーに向けて開催された平成29年度JAQG活動報告会の様子を紹介する。

2. 報告会概要

航空宇宙分野の品質マネジメントシステム規格である9100規格（汎用的な品質マネジメントの国際規格ISO9001に航空宇宙業界特有の要求事項を追加したもの）が、2016年秋IAQG 3セクター（アメリカ、アジア・太平洋、ヨーロッパ）で同時に改正された。既に認証を取得している組織は2018年9月までに改正版への認証移行を進める必要があり、そのサポート、認証制度維持整備を今年度のJAQG活動の一つとして推進している。今回の報告会では、9100認証移行対応以外にも、

我が国航空宇宙産業界の要求をIAQG
施策に反映
品質保証制度全般の標準化の促進



報告会の様子（東京会場）



報告会の様子（名古屋会場）

品質保証に関するガイダンス・ベストプラクティスの提供

等のJAQG活動に対し、各ワーキンググループがどのように取り組んでいるかに焦点をあて報告した。

また、活動報告に先立ち特別講演として、日本適合性認定協会 認定センター 審議役 鈴木達也 殿に「第三者認証制度における日本適合性認定協会活動状況」と題して講演を頂いた。



特別講演 鈴木 審議役
(日本適合性認定協会)

なお、報告会とは別に、新たにJAQGメンバーになることを検討している企業および新規に会員となったメンバー向けにJAQGの活動を紹介する入会オリエンテーションが開催されている。

3. 報告会の内容

今回の報告会の参加者数、参加企業・機関数は以下の通りである。

東京会場 (2/7開催)

参加者数：139名、

参加企業・機関数：71

名古屋会場 (2/9開催)

参加者数：101名、

参加企業・機関数：59

報告会での報告内容(概略)を以下に示す。(報告順。()内は報告者)

なお、報告会当日の配付資料のPDFファイル版は、JAQGメンバー専用ページに掲載されている。

詳細は以下を参照されたい。

メンバー専用ページ→JAQG活動報告会/説明会

リンク先：<http://www.sjac.or.jp/jaqq/conference/seminar.html>

(1) JAQG活動報告(嶋貫 JAQG幹事長(株式会社SUBARU))

JAQG活動状況全般が報告された。

昨年5月に実施された平成29年度の運営委員会にて承認された活動戦略、事業計画に基づき、ほぼ計画通りに活動が実施されていることが報告された。具体的には、JIS Q 9100認証移行が計画通りに順調に進んでいること、各種規格、ガイダンスの作成、和訳版展開が順調に進んでいること、監督官庁等のステークホルダーに対しJIS Q 9100シリーズ規格やその認証制度をご活用いただくための支援や紹介を継続していること、JIS Q 9100の



嶋貫 JAQG幹事長
(株式会社SUBARU)

認証組織数が増加していることなどである。

また、加えて国内特有の事象等を鑑み、要求事項の共通化や昨今の品質事案などを考慮した更なる強靱な品質システムを構築するための改善検討に着手していることが報告された。

(2) JRMC活動報告 (柴田 憲志 JRMC議長 (三菱重工業株式会社))

9100規格の認証制度では、9001等の他の認証制度と異なり業界が自らスキームオーナーとなって関連機関を承認し、監視するしくみを構築することによって制度自体の信頼性をさらに高めている。JRMC (航空宇宙審査登録管理委員会, Japan Registration Management Committee) は、このスキームオーナーとしてJIS Q 9100の認証基準の整備を行うとともに、認証制度の維持・管理活動を行っている。平成29年度の主な取り組みとして以下の報告がなされた。

- ・ 認証制度を規定する規格の補足文書の改訂や認証機関からの問い合わせに対応し、JIS Q 9100：2016年版への認証移行作業を実施
- ・ 審査員の資格基準や認証プログラム基準 (9104シリーズ規格) のIAQG改正作業へ



柴田 JRMC議長
(三菱重工業株式会社)

参画した。

- ・ 認証組織数の増加や他国の認証制度立上げ気運の盛り上がりなどに呼応して関係機関の活動を立会／監視するOP監査員の増員を実施。幹事会社のメンバーを中心に広く育成中

また、今後については、2018年9月の認証移行期限に対して既認定全組織がスムーズに移行できるように引き続きモニターし課題への対応を行っていくことが報告された。

また、その後JIS Q 9100 2016年版の認証にあわせて認証データを登録するオンラインシステム (新OASIS) をIAQGであらたに開発したが、その操作方法に対してのこれまでの質疑応答を紹介した。

(3) ワーキンググループ (WG) の活動報告 (各WG主査／各WGメンバー)

各ワーキンググループ (WG) 活動の今年度のトピックスを中心に報告を実施した。

(a-1) 規格検討WG活動報告 (白井 達矢 主査 (川崎重工業株式会社))

IAQGでの規格の制定／改正活動へ参画し、IAQGとしての意見を積極的にIAQGに対して提言した。

IAQG規格に対応する国内規格の制定／改正作業については、国内での適用性／有用性について検討し、下記SJAC規格の制定／改正作業を実施した。

SJAC9136 (*1)、SJAC9145 (*2)、
SJAC9146 (*3)、SJAC9107 (*4) 発行済
SJAC9138 (*5) は2018年3月発行予定

又、規格の理解促進のため、IAQGで作成される規格の展開支援文書 (FAQ等) / ガイダンス文書の日本語版資料の作成・維持作業を行い、9100：2016年版関連文書3件をIAQGメンバー専用ページに掲載した。

- *1) SJAC9136：航空宇宙 根本原因分析及び問題解決（9S方法論）
- *2) SJAC9145：航空宇宙 先行製品品質計画（APQP）及び生産部品承認プロセス（PPAP）に関する要求事項
- *3) SJAC9146：異物損傷（FOD）防止プログラム-航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項
- *4) SJAC9107A航空宇宙組織におけるダイレクトデリバリー権限に関する手引き
- *5) SJAC9138 統計的製品合否判定に関する要求事項



白井 規格検討WG主査
(川崎重工業株式会社)

本活動報告会では、IAQG新規作成規格の動向として、9138規格の新規制定について、以下のとおり報告が行われた。

**(a-2) 規格検討WG活動報告-9138規格概要
(首藤 寛 (三菱重工業株式会社))**

「9138規格は統計的製品合否判定に関する方法について記載されたものである。消費者保護の統計的な手法であるSAE APR9013を元に更に内容を追加し、様々な統計的合否判定



首藤 9138規格アジアパシフィックフォーカス
(三菱重工業株式会社)

の選択肢を提示、柔軟性を提供している。本規格の適用条件は、組織により選択された場合又は契約に含まれる場合である。」との紹介が行われた。

本規格は、SJAC規格として、2018年3月末までの発行を予定している。

(b) 特殊工程検討WG活動報告 (堀田 彰彦 主査 (川崎重工業株式会社))

本WGでは、JAQGメンバーが特殊工程プロセスの世界規模の認定制度であるNadcap認証を取得／維持するための支援を実施している。

今年度の主な活動としてNadcap監査基準であるAC日英対訳版53アイテムをJAQGメンバー専用ページに公開したことが報告された。

また、本認証制度の管理運営母体であるPRI (Performance Review Institute) の技術委員会に対し認証制度に関する日本のサプライヤーの意見を提言したこと、熱処理工程に関するAMSスペックの改訂案についてSAE (Society of Automotive Engineers) に提言していたJAQGメンバー会社からの意見11件のうち、9件が採用されたことが報告された。

現状Nadcapの審査員は外国人が多く、それらの審査は英語で実施されている。かねてより日本人審査員による日本語の審査の機会を増やすことが要望されており、本WGで日本人監査員増員育成を支援している。今年度は1名がエントリーされ、資格に対するPRI内規を満たすまで継続して支援していくことが報告された。



堀田 特殊工程検討WG 主査
(川崎重工業株式会社)

本年度の活動のトピックスとして、辻 純二 PRI Board of Directorメンバー（株式会社IHI）より、Nadcapの最新活動状況が紹介された。



辻 特殊工程検討WGメンバー、
PRI Board of Director メンバー
(株式会社IHI)

(c) コミュニケーションWG活動報告（前畑 貴芳 主査（JAQG事務局））

本WGではJAQGウェブサイト維持・改修、JAQGニュースやウェブ通知、各種説明会の企画、JAQGメンバーからの直接問い合わせ等を通じて会員へ最新情報をタイムリーに提供している。

今年度は、26件のJAQGニュース配信を含む33件ウェブ通知を実施したことが報告された。また、先述した新OASISに対するワークショップ（説明会）を東京および名古屋の2か所で開催し、述べ400名の出席者にご参加いただいたことや、取り扱い説明書のHP公開などの成果が報告された。



前畑 コミュニケーションWG 主査
(日本航空宇宙工業会)

(d) スペースフォーラム活動報告（難波 宗行 主査（三菱重工業株式会社））

JAQG スペースフォーラムは、宇宙業界が一体となり、JIS Q 9100品質マネジメントシステムを展開し、日本の宇宙製品の品質の著しい改善とコスト低減を図ることを活動方針としている。

平成27年度には9100規格準拠のJAXA品質要求文書「JMR-013 品質プログラム標準（基本要求JIS Q 9100）」が国内宇宙業界の共通的

な品質規格として発行されている。

今年度も昨年度に引き続き、このJMR-013が呼び出される適用プロジェクトの拡大支援を通じ、日本国内企業における9100規格の適用拡大と活用の推進に努めていることが報告された。

IAQG スペースフォーラムへJAXA殿にも参画いただき、業界の課題や動向情報などを共有したことが報告された。

また、アジア・太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF-24 2017年11月 バンガロール、インド）にスペースフォーラムとして参加し、InAQG（Indian Aerospace Quality Group）と共同し、9100規格／IAQG活動のプロモーション活動（新規メンバー／ステークホルダー参加促進）を実施するとともに、ISRO（Indian Space Research organization）品証部門との会議を開催し、9100規格／IAQG活動の啓蒙活動を行ったことが報告された。



難波 スペースフォーラム 主査
（三菱重工業株式会社）

(e) SCMH（Supply Chain Management Handbook）WG活動報告

（太田 茂雄 主査（住友精密工業株式会社））

SCMHは、IAQG戦略の重要活動の一つとなっているもので、サプライヤーのためのガ

イダンス文書、トレーニング資料、ベストプラクティスを集めたものであり、既存の規格を補足し「どうすれば要求事項を満たせるのか」、また「どうすれば改善／向上を図ることができるのか」に焦点をあてた文書である。本WGはこのSCMHをIAQGレベルで参画して開発するとともに、その和訳版を発行してIAQG Webのメンバー専用ページにて公開し、IAQGメンバーへの普及を行っている。

今年度は、IAQG SCMH文書6件の和訳版を作成したことに加え、現在1件のIAQG SCMH文書の和訳に取り組んでいる。作成したSCMH文書と和訳版はメンバー専用ページに掲載したことが報告された。

また、昨今業界で問題が散見されている模倣品への対応として作成したSCMHの内容について具体例も交えてその事例、対処方法について紹介された。



太田 SCMH WG 主査
（住友精密工業株式会社）

(4) IAQG / APAQG（Asia-Pacific Aerospace Quality Group）活動報告
（北森 直樹 APAQGセクターリーダー（川崎重工業株式会社））

IAQG/APAQG活動へ参加する目的は、品質関連の国際会議に積極的に参加し、日本の航

空宇宙産業の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルールなどに反映させることである。

2017年は、IAQGストックホルム会議（2017年5月）、IAQGクリーブランド会議（2017年10月）、APAQGマニラ会議（2017年3月）、APAQGバンコク会議（2017年9月）会議に参加し、9100シリーズ規格改正・移行、新規規格の開発、JAQG提案ガイダンス文書のIAQG SCMHとしての発行、航空当局・防衛・宇宙等のステークホルダーとの関係強化等について協議したことが報告された。

又、APAQG活動の拡充のため、APAQGセミナーをオーストラリアメルボルン市で2017年11月に開催したこと、韓国工業会（KAIA）と会議を行い韓国航空宇宙品質グループ（KAQG）と韓国内での9100認証スキーム立ち上げに関するアドバイスを引き続き実施し、日本に韓国を加えたAPAQG-OPMT（Other Party Management Team）の立ち上げ準備作業を行ったことが報告された。



北森 APAQGセクターリーダー
（川崎重工業株式会社）



福本 IAQG OPMT APAQGセクターリーダー
（川崎重工業株式会社）

IAQG/APAQA活動報告のトピックスとして、福本 克治IAQG OPMT APAQAセクターリーダー（川崎重工業株式会社）より、全世界での9100：2016年版への移行状況（認証機関、AQMS審査員、認証取得組織）が紹介された。

4. おわりに

以上、今年度のJAQG活動報告会につき内容を紹介した。JAQGメンバー数は近年増加の一途を辿っており500社に迫る勢いを示している。本活動報告会では、両会場ともJAQG活動についてご理解を深めていただくとともに、活発な質問、ご意見を頂戴した。頂戴したご意見は今後のJAQG活動の参考とさせていただきます、メンバーの品質向上、コスト低減への一助となるように活動を進めていく。皆様のご指導、ご鞭撻を切にお願いする。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター (JAQG) 事務局 部長 前畑 貴芳〕